



事務所 伊那市西町5016-2 Tel(72)0077 例会日 毎週木曜日 会場くぬぎの杜 Tel(78)1121
 会長 荒木康雄 幹事 向山賢悟 会報委員長 唐木 拓 第2993回 例会2023.6.15 No.1654



2022-23 年度 RI テーマ

IMAGINE ROTARY

ソング それでこそロータリー

会長談話 荒木康雄会長

新型コロナウイルスが感染症法の5類に移行され、Afterコロナに向けて動き出したことを実感します。4月初旬に奈良へ桜を見に行ってきました。東大寺の大仏や興福寺の阿修羅立像、法隆寺などを見て感激しました。感染症は人類史上たびたび猛威を揮い、日本や世界の歴史を変えてきました。日本では奈良時代に奈良の都で疫病が流行し100万人単位の犠牲者が出たと言われています。この時、聖武天皇は奈良の大仏を建立し、日本全国に国分寺を造って仏教を信仰することによって人々の不安を落ち着かせようとした。聖武天皇は仏教を広めると同時に、公共事業により経済を復活させようとした訳です。今、日本は仏教国と言われていますが、そのきっかけは奈良時代に流行した天然痘であったといえます。天然痘が流行した理由は遣唐使が持ち込んだものと見られています。江戸時代末期にもコレラが大流行したことがあり、人物の交流があると病気が広まるのはやむを得ないことです。ヨーロッパでは、ローマ帝国に天然痘が流行したことがきっかけで、キリスト教がヨーロッパ全体に広がっていったと言われています。また14世紀にはペストが大流行し約1億人が死んだとも言われています。これがきっかけで「ルネサンス文化」が開花することに繋がり、「プロテスタント」が生まれることに



繋がっていきます。インカ帝国が滅んだ原因となったのもスペイン人の持っていた病原体によるものだったと言われています。このように、感染症は人類の歴史を変えてきました。グローバル社会では世界的に人の行き来がある限り、更には宇宙の行き来の可能性も出てきて、これからは新たな病気が発生する可能性はぬぐえません。人類の歴史は病原体との戦いだからこそ、今回の経験を生かして次に起こった時の対策の一助となるように備えなければなりません。そして、私たちは、今回のコロナ禍を通じて歴史に何を残すことができるのでしょうか？

入会式**㈱原金物 代表取締役 原 年弘様**

(紹介者 鈴木正比古会員)

伊那ロータリークラブには私の父もお世話になっておりました。一日も早く理解し、皆様のお力になれるように頑張りますので、よろしくお願ひします。

**㈱小松総合印刷所 代表取締役 小松肇彦様**

(紹介者 山崎秀亮会員)

横山で印刷会社をやっています。息子が二人いまして長男が会社に入っています。現在は犬二匹と女房と暮らしていて、毎朝ゴールデンレトリバーの散歩をして大変ですが頑張ります。

**幹事報告** 別紙をご覧ください**出席報告** 会員数 57名 内出席免除 19名
出席者 32名 事前ミーティング0名 出席 69.57%

ニコニコボックス

- ・荒木康雄 原 年弘さん、小松肇彦さんの入会を歓迎致します。
- ・山田 益 長い間ご迷惑をおかけしました。
- ・平出吉範 やっと同期が入会してくれました。
- ・中曽根隆文・熊谷吏朗 異動により退会となります。大変お世話になりました
- ・鈴木正比古・山崎秀亮 原さん、小松さんご入会おめでとうございます。
- ・原 年弘・小松肇彦 よろしくお祝い致します。
- ・ゴルフ部入賞者

退会者ご挨拶

中曽根隆文会員(在籍4年)

仕事では不完全燃焼でしたが個人的には充実した日々を過ごせました。営業店勤務は伊那の地が最後となりましたこと一生の宝物になったと思います。移動先は本店の監査部ということで八十二銀行との合併も控えており、大変なると思いますが頑張りたいと思います。最後のゴルフ部のコンペで、同じく退会する熊谷会員とワンツーフィニッシュを飾ることができました。



熊谷吏朗会員(在籍2年)

会社の異動で伊那から佐久の事業所へ行くことになりました。コロナの真っ盛りで皆様とあまり交流ができませんでしたが、好きなゴルフを通じて交流を深めることができました。後任は倉澤という者ですが、よろしくお祈りします。佐久は、台風の通り道だったり、加えて軽井沢も管轄になり天皇陛下や国際会議が開催されたり、その時に電気を止めると私も首になりますので、なんとか報道されないように頑張っていきたいと思います。



地区役員活動報告 2023年度RYLA報告

(RYLA: Rotary youth leadership award)

RI2600 地区青少年委員会カウンセラー

中川博司会員

去る5月13日、駒ヶ根RCをホストとして駒ヶ根商工会館アイパルで2日間にわたりRYLAが開催された。会員の中には未だにRYLAって何?と尋ねられるけれども、直訳すれば”ロータリーが主催する青少年に対するリーダーシップ育成の機会の場“とでも言うのでし



ようか。青少年交換、ローターアクト、インターアクトと並ぶロータリーが提供する年に1回開催される青少年奉仕活動の一つです。このセミナーに呼ぶ青少年の年齢は14歳～30歳とされており、前述したロータリーの青少年団体のメンバーの他、開催地の社会人なども参加します。セミナー内容は、本来の趣旨に沿っていれば主催するロータリークラブが決めればよいとされており、今回は「イマジン・ザ・ワールド～リーダーシップが切り拓く新たなステージ～と大会テーマを掲げ、全県下のおよそ60名ほどが参加して基調講演やグループディスカッション、交流会が行われました。特に、駒ヶ根RCが誇るネパールの山村・がトカルパでの長年にわたる国際奉仕活動について、奉仕団体トカルパのひかりの窪田会長(駒ヶ根RC会員)やJICAの元隊員で交際青年会議所のTOYP大賞を受賞された半田好男氏による素晴らしい基調講演があり、現地トカルパ村からの招待者も加わり、国際色豊かなセミナーとなりました。本活動は、2023年5月26日発行の「月刊 かみいな」にも詳しく紹介されており、興味のある方はそちらもご覧ください。

さて、この場をお借りして青少年奉仕活動に関連する最近の話題・課題を提供致します。私は、およそ9年近く地区の青少年奉仕委員会のカウンセラーを仰せつかり地区の青少年活動全般を見てきました。今年6月末で任期が切れ、その後は茅野RCの桑澤一郎パストガバナーにこの役目がバトンされます。伊那RCでは現在、国際ロータリーが勧める前述の4つの青少年奉仕活動についていずれも実施していません。以前は、青少年交換(過去2回)とローターアクトは実施していましたが、残念ながら中断ということなのでしょう。そのような状況下で、ロータリー会員の減少を穴埋めする目的なのか、それとも消滅の危機にあるローターアクトを救う目的なのかは定かではありませんが、ローターアクトを正式なロータリアンとして吸収しようとする動きがあります。一方、大学内でローターアクトクラブを作り、大学生をクラブ員にしようとする動きも日本で始まっています。いずれも主役であるローターアクト会員の想いは無視です。“ロータリアンになる? いやいやローターアクトを大学内に作る?”

兎も角も、ロータリーの青少年奉仕活動の意義とは何ぞやという基本から問い直さなければならぬ事態が起きていることは誠に残念です。